

事業所名

放課後等デイサービスマネビー

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

1 月

21 日

法人（事業所）理念		利用者が社会生活を行う上で必要となる、日常生活能力の向上、自身で考え決断し行動するなどの非認知能力の向上を目的とする。 そのために、精神的・身体的安定の元に、環境を通して様々な体験・経験を積み重ねて、自身の能力を向上させていけるよう療育を提供する					
支援方針		自然体験や社会体験を通して、社会で生きていくために必要な、社会性・協調性、自分で考える力を養うこと。 仲間と一緒に様々な経験を通して、コミュニケーション力を養い、遅くしなやかに生きていける力が育つように支援する。					
営業時間		9	時	分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無 あり
本人支援	健康・生活	・衣服の調整・着脱や手洗いなど自身を健康な状態に保つための指導を行う。 ・日々、自分たちの食事は自分たちで用意することを経験する中で、生きるために必要な食に対する理解・関心また、自身で行える技術の向上を行う。 ・子どもの主体を尊重し、「やってみたい」「がんばろう」「できた」などの意欲を持って自身の生活を豊かにしていけるように関わる。					
	運動・感覚	・地域の山（八丈岩）での活動を通して不安定な足場の中で体を支える経験や、日々変化する山の状態に自分の体を合わせるなど、遊びを通して体幹を強くする。 ・集団での遊びを通して他者との距離感や、力加減等の感覚を養っていく。 ・野外活動を通して手先の微細な動きの調整などの経験も行うようにしている。					
	認知・行動	・野外活動・社会活動の中で仲間とともに過ごす経験を通して、自分の強み、弱みに気づいていく。 ・活動中、活動後のＦＢ（フィードバック）を行うことで、本人に強み・弱みを意識していけるようにする。 ・集団活動の中で、自身の強み・弱み、他者の強み・弱みを知ること自分たちで補い合いながら、活動に取り組み、お互いを認めあう。					
	言語 コミュニケーション	・野外活動・社会活動を通じて、他者の存在を認め、自分の強みと相手の強みを知りお互いに活かし合える関係性の構築。 ・活動後の振り返りや定期的な子ども同士のミーティングの機会を設け、自分の思いを他者に伝える経験を培う。 ・活動を通して、協力することで達成する経験を積み重ね、多くの人の繋がりの中で自分が生かされていることを知る。					
	人間関係 社会性	・野外活動・社会活動を通じて、他者との協力の仕方や年齢に応じた周りへの関わりを習得していく。 ・小集団の中で、他者との適切な距離の理解や、言葉を身につける。 ・あそびを通して、自分の思いを伝えるために言葉の整理や話す文章の整理を行い、相手に伝える練習をする。					
家族支援		・定期的な面談の場や送迎時に子どもの様子だけでなく家族の状態を知ること で、いち早く変化に気づけるように努める。 ・「発達地図」を利用し、通所開始後1カ月間面談を行う中で、将来の姿を一 緒に創造し共有することで、保護者のモヤモヤを解消する。				移行支援	就学に向けて本児の特性を家族と一緒に協議し、子ども自身が移行先でそ の子らしく過ごせるように進めていく。 保育園に実際に訪問し、本児が生活する環境の調整や関わり方の調整を 行っていく
地域支援・地域連携		家族を通じて子どもが過ごしていく保育園や幼稚園、小学校との連携を図る。 森のはじまりなど地域で活動している市民団体と連携を取って、子どもたちの 経験の幅せるようにとにも取り組んでいく。				職員の質の向上	職員同士での写真を用いた振り返りや事業所の理念・子どもとの関係性の 構築の仕方などの研修を積み重ねていく。
主な行事等		特になし					